

整理番号	2018M-	099	補助事業者名	地方独立行政法人山口県 産業技術センター	事業項目名	プラスト研磨による3D積層モデルの表 面仕上げ処理に関する研究
------	--------	-----	--------	-------------------------	-------	------------------------------------

## 別紙 JKA補助事業 平成30年度 事前計画／自己評価書(4/5)

### 5. 補助事業の自己評価

作成日	2019	年	5	月	13	日	作成者	稲田和典
-----	------	---	---	---	----	---	-----	------

#### (a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、事前計画／自己評価書(3/5①②) 4. 事前計画 に対する達成状況等を把握し、分析・評価してください。					採点
(1) 受益者 (ニーズ)	受益者:計画通り、3Dプリンターの活用を検討している県内の鋳物メーカーとの共同研究を実施することができた。 ニーズ:計画通り、積層痕の低減に関する基礎的なデータが得られた。本研究で製造用設備の試作に活用するなど、製造器具としての実用性を確認することができた。これは研究会で実施したニーズ調査において、3D積層モデルの実用的利用への要望と一致している。				4
(2) 事業内容	共同研究に必要な機器の導入・設置が当初計画より遅れたことにより研究の開始が遅れたが、予定通りの機器を設置し、効率的に研究を進めた結果、事業期間内に完了することができた。本研究の応用検討会、実用性検討会も計画通り実施した。また研究の実施概要をホームページと研究会会員へのメール配信するなど広報に努めた。				
事業の新規性または継続の必要性	本事業で実施した研究は、3Dプリンター、分析機器および専門的な知識を持つ技術者を必要とすることから、民間企業が一人で実施するのは困難な課題である。そのため、県内企業で本研究内容と同様の取り組みを実施している企業および研究機関は無く、新規性が高かったといえる。				4
事業の発展性	<b>2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)</b>				
実施計画・体制	導入機器の詳細仕様の検討に時間を要し、最終的な仕様の決定に想定以上の期間を要したため機器の導入が遅れたが、積層造形、金属材料の分析、粗さ測定など、本研究に必要な技術・知識を持った研究員による研究体制により、効率よく研究を進めることができたため、共同研究を事業期間内に完了することができた。				4
(3) 達成目標	事業の実施結果	[達成値] 平成31年3月31日までに事業を完了した。	[達成状況] 100%	[具体的内容] 本研究に必要な技術・知識を持った研究員による研究体制を整えたことにより、効率よく研究を進めることができた。これにより、機器の導入の遅れのため遅延していた研究開発を事業期間内に完了することができた。	4
	事業の成果・波及	[達成値] 研究成果の報告会を開催した。	[達成状況] 100%	[具体的内容] 「やまぐち3Dものづくり研究会」を開催し、この中で、本事業の研究成果について報告した。	4
(4) 情報発信	事業の実施結果	[達成値] 1. やまぐち3Dものづくり研究会の会員への周知回数:1回 2. 当センターのホームページへの掲載回数:1回	[達成状況] 1:100% 2:100%	[具体的内容] 1:やまぐち3Dものづくり研究会の会員に対して電子メールにて事業報告を行った。 2:本補助事業の実施概要報告書を作成し、ホームページ上で公開した。	4
	競輪・オートレース補助金による事業であること	[達成値] 1. やまぐち3Dものづくり研究会の会員への周知回数:1回 2. 当センターのホームページへの掲載回数:1回	[達成状況] 1:100% 2:100%	[具体的内容] 1:やまぐち3Dものづくり研究会会員に対する電子メールにおいて(公財)JKAのオートレースの補助を受けて実施したものである旨を記載した。 2:実施概要報告内で(公財)JKAのオートレースの補助を受けて実施したものである旨を記載した。	4
(5) 自己評価の体制	2019年5月13日に評価委員会(委員は企業支援部長、全6名)を開催し、目標に対しての達成状況について評価した。評価結果は当センターHPで公開予定。				4

#### (b) 総合評価

総合 評価点	4
-----------	---

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。	
(1) 事前計画(2/5)記載の「補助事業の直接的な目的」を踏まえた、事業全体についての意見・所感	3Dものづくり技術の共通的な課題の一つである3D積層モデルの表面状態の改善を目的とした「プラスト研磨による3D積層モデルの表面処理に関する研究」を実施し、一定の成果が得られたと考えている。
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	【優れている点】県内企業の3Dものづくり技術の向上を目的とした「やまぐち3Dものづくり研究会」の会員のニーズを反映した研究内容であるため、本研究で得られた成果の活用先が明確である。 【課題・改善すべき点】3D積層モデルには3Dプリンターの方式や使用する材料が多数あり、本事業のみでは限られた3D積層モデルでの検討のみにとどまった。
(3) その他、アピールしたい点、是非知ってもらいたい点	当センターでは本事業で実施した研究および設備のほか、平成25年度にJKAの補助を受けて整備した樹脂積層式造形機をはじめ、多数の3Dものづくり機器および3Dものづくり機器を活用した事例を保有している。これらの機器や事例(技術)を積極的に活用することで相乗効果を高め、より多くの成果が期待できる。